



ちちぶじけん 「秩父事件」は、どんな事件だったの



埼玉県秩父地方で、自由民権運動と農民運動が結びついて起きた、「世直し」のための蜂起事件だよ。

埼玉県西部の秩父地方は、山村が多い地方です。江戸時代の末から、輸出用の生糸の生産がさかんになりましたが、1882年から、生糸の値段が大はばに下がりました。畑をくわ畑（くわの葉がかいこのえさになる）に変えてしまった農家は、生糸生産を続けるしか、生きる道がなかったので、高利貸からお金を借りて、生糸生産を続けました。それでも、生糸の値段が下がり続けたので、農家は借金を返せなくなり、土地を手放すしかしょうがなくなってしまうました。また、地租改正などによって、農民の税金が重くなったことも、農民を苦しめました。

困民党が「世直し」の闘いを始めた

ちょうどこの時期に、秩父地方では、自由民権運動を行っていた自由党が勢力を広げ、1884年8月に、農民出身で自由党員の高岸善吉ら3人が中心となって、困民党をつくりました。この困民党は、1か月余りで、3000人の党員をもつほどになりました。そして、農民が高利貸に借金を返す期間を引きのばさせる運動を起こしましたが、うまくいかなかったので、田代栄助という自由党員の指揮のもとに、武器をもって「世直し」のための闘いを起こしました。

失敗に終わり、7人が死刑になった

農民軍は10月31日から、金崎・上吉田・小鹿野・大宮郷（秩父市）などで、高利貸・役場・警察署・裁判所をおそい、借金の証文を焼いたり、武器やお金をうばったりしました。しかし、かけつけた警官隊・軍隊と衝突し、11月4日には、ばらばらになってしまいました。農民軍の一部は、群馬県・長野県に進んで、闘いを続けましたが、まもなく敗れてしまいました。その後の裁判では、死刑7人をふくむ多くの人が、刑ばつを受けました。

